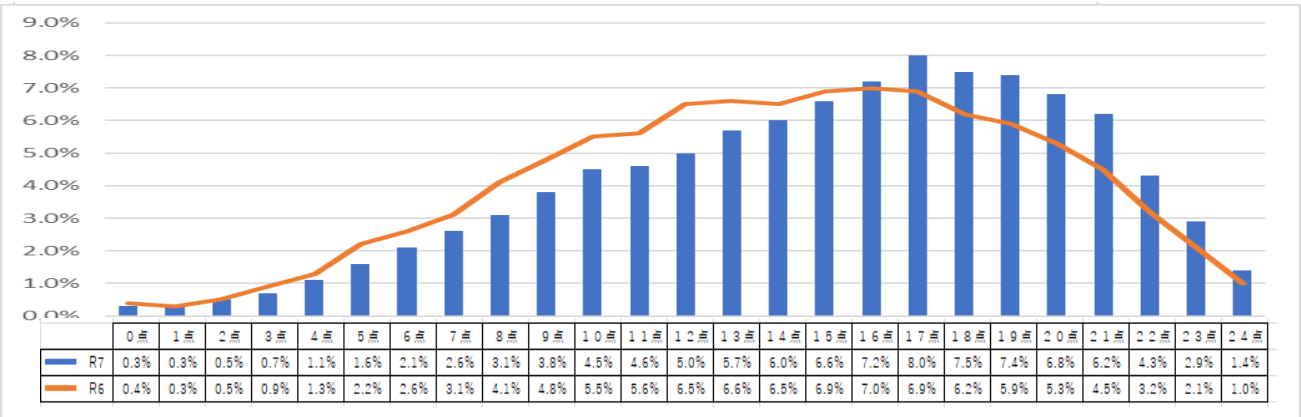


授業改善の手引 小学校第5学年国語

1 調査結果

(1) 分布状況



正答数の最頻値は17問、平均正答数は15.0問です。R6年度と比較して、正答数が16問以上の層が増加した分布となっており、思考・判断・表現の正答率が全体的に増加していることが要因と考えられます。また、正答数が5問以下の児童は全体の4.5%であり、R6年度から1.1ポイント減少しています。この層に属する児童へのきめ細やかな指導の成果が見られますが、今後も継続的な指導が必要です。

(2) 領域等の正答率

観 点 ・ 領 域 等		正答率 ( )はR6	
知識・技能	( 9 問 )	66.3 %	( 67.2 % )
思考・判断・表現 (話すこと・聞くこと)	( 4 問 )	64.2 %	( 57.0 % )
思考・判断・表現 (書くこと)	( 4 問 )	63.0 %	( 55.8 % )
思考・判断・表現 (読むこと)	( 7 問 )	56.9 %	( 49.8 % )

令和6年度と比較し、観点別では「思考・判断・表現」が各領域とも7ポイント程度上回っています。一方で、「知識・技能」は全体で0.9ポイント下回っており、令和7年度の特徴として、文脈に沿って語句や漢字を適切に使うことに課題が見られました。これらは、言語能力の重要な要素であり、全ての教科の学習を支える基盤です。生きて働く「知識及び技能」として習得することが重要となるため、言語活動の充実を図る中で、児童の興味・関心や学習の必要に応じて語句の使い方を吟味したり、漢字を適切に使ったりする場面を設定し、習得した語句や漢字を活用するよう働きかけるなど、指導の工夫が必要となります。

(3) 結果概要

ア【知識及び技能】について

- 「漢字の由来、特質について理解する」は良好でした。
- 「修飾と被修飾との関係を理解する」について、昨年と比較して正答率は上昇していますが、課題は継続しています。

イ【思考力、判断力、表現力等】(話すこと・聞くこと)について

- 「意図に応じて質問を工夫している」は比較的良好でした。
- 「互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている」について課題が見られます。

(授業実践アイデア例 参照)

ウ【思考力、判断力、表現力等】(書くこと)について

- 「自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして文章を書く」は、比較的良好でした。
- 「自分の考えを伝えるための書き表し方を工夫する」について課題が見られます。

エ【思考力、判断力、表現力等】(読むこと)について

- 「登場人物の心情について、描写をもとに捉えて読む」については良好でした。
- 「場面の展開を捉えて読む」(短答式問題)について課題が見られます。(授業実践アイデア例 参照)

(4) 経年比較問題の状況 ((○改善、◇改善傾向、●課題が継続、△▼はR6県学調との比較により増減を表す)

通し番号	正答率	比較	調査のねらい
●13(読)	56.1	▼17.0	場面の展開を捉えて読む。
●16(知・技)	50.2	△10.6	修飾と被修飾との関係を理解する。
●20(読)	52.1	▼0.8	段落相互の関係に着目して読む。
○24(書)	59.7	△12.1	自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして文章を書く。

## 小問正答グラフ

[illegible]